

平成27年度 第1回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成27年6月25日(木) 10:00~12:20
- 場 所 公立鳥取環境大学 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、河原正彦委員、三野徹委員、若原道昭委員、岡部哲彦委員
林田英樹委員、吉田圭子委員、渡邊良人委員 [8名/10名]
葉狩弘一監事[1名/2名]
- 欠席者 藤縄匡伸委員、山田憲典委員、松本美恵子監事

【議事】

- 1 前回議事要旨の確認
原案のとおり了承

- 2 審議事項

- (1) 平成26年度決算について

資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

【質疑応答】

- ・ 目的積立金で認められるもののうち、大学の裁量でどこまでどのように使えるのか。
→ 基本的には大学の自由であるが、適宜迅速に対応するために、このような資金を持っていることが必要である。
- ・ P8「行政サービス実施コスト計算書」は何を意味しているのか。
この支出について、大学側が何かアクションをとることはあるか
→ 大学を運営するために、県と市がどのくらい費用を出しているかを県(市)民に公表するための資料。中期目標に従って自己財源比率を高めるよう取り組んでいる。
- ・ 大学の決算報告の一方では、7千万弱の利益があるといいながら、行政としてこれだけコストが掛かっているという資料が両立しており、大学としてどういう立場をとられているのか。
→ 利益というより、収入から支出を差し引いて計算してこれだけの剰余金があったものである。P8「行政サービス実施コスト計算書」とは、別視点で見るべき。
- ・ p6 投資活動について、主に定期預金であるだろうとは思いますが、投資活動等の資産運用状況の報告は経営審議会で行わないのか
→ 公立大学法人後は、国債等の購入はしていない。現在の分は学校法人時代のものを運用しているにとどまり、資産運用状況を四半期ごとに理事長に報告している。

<監査報告>

葉狩監事より、平成26年度決算につき、

- ・ 結果は相当であると認める。
- ・ 財務諸表は必要なものが記載されている

旨、適正と認める報告を得た。

- (2) 平成26年度業務実績について

資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

【質疑応答】

- ・業務実績資料の内容全てが公開されるのか。
→ 設置者側の評価委員会で内容を精査後、公開される。
- ・自己評価は学内で行われたものか
→ 学内において評価後、設置者が評価委員会において評価する。
- ・P34 就職内定率について 93%という数値だけでなく、学生が本当に希望する職種に付けたのか。現場では、人は欲しいが本当に欲しい（適した）人がいない、学生さんは働きたいけど働く場所がない、という双方のミスマッチが生じている。学生のそのような状態をケアしていけたらいいと思う。
→ 地域協働型インターンシップを活用し、積極的に企業に出かけて行きながら、学生自身がどのような仕事に適性があるのかを探ったりと、改善に向けて努力をしていきたい。
- ・環境意識の高い人材の輩出の項目で、「課外活動の要件を満たしておらず環境士の資格を取得できなかった」、と読み取れるが、どのような理由か。
→ 環境士の検定を取得するために必要な課外活動を、学生が行っていなかったということ。

(3) 平成27年度補正予算について

資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

(4) 翌年度以降の債務負担行為の案件について

資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員退職手当規程の一部改正について

資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

3 報告事項

(1) 近況報告

資料に基づき報告があった。

- ・障害者差別解消法が来年4月から施行に伴い、大学でも障害のある学生や受験生に対し、合理的配慮を行わなければならないと思われるが、本学における合理的配慮の検討状況を教えていただきたい。
→ 受け入れ態勢を整えるべく、保健師と学務担当が日本学生支援機構の研修等を受講することを考えている。現在、聴覚障害のある学生について、要約筆記等を行っている。
- ・発達障害のある学生への対応はどうか
→ 臨床心理士を相談窓口として配置している。
- ・障害のある学生のサポートを担当する専門のセンター等担当部署の新設は考えている
→ 教員のFD研修会でも取り入れ、組織的に対応していく必要があると考えている。
- ・県道及び国道の案内板の大学名が前のままになっているようであるが。
→ 道路管理者に要請したい。
- ・環境学部入学者のうち、県内からの入学者が他県に比べて少ない。また、環境学部の学生の就職状況もあまり芳しくないがいかかか。
→ 学生自身に就職に対する考え方をよく身に付けさせる必要がある。企業と学生のマッチングを積極的に行いたい。

- ・学生の動向について、鳥取県内に就職する学生がいるということは、大変よい傾向と思う。Iターンなど、上手く企業と学生間のマッチング努力をしていただきたい。
- ・留学生の授業料減免制度に取り組んでおられるが、国際交流についてどういう状況で進んでいるか。英語村や資格試験で頑張っておられるので、そちらの方面でも頑張っていていただきたい。
 - 外国語授業に力を入れたい。専任教員も2人しかおらず、この語学教員数の増加も必要と考えている。留学生について、受け入れ時は学生とも協力して対応している。
- ・日本交通とのバスの状況はどうか
 - 4月から、バスを2便大型に変更していただいております。多少授業の集中するときや雨天時は混み合うことがあるようだが、顕著な苦情は入っていない。学生も課外授業で利用するなど、地域へ出かけているようである。

(2) 大学院の新研究科設置届について

資料に基づき報告があった。

(3) 地（知）の拠点大学（COC大学）への申請について

資料に基づき報告があった。

(4) 公立鳥取環境大学教授会規程の一部改正について

資料に基づき報告があった。

(5) 平成27年度公立鳥取環境大学特別研究費助成(学長裁量特別事業)の採択結果について

資料に基づき報告があった。

4 その他

学長より、今後カリキュラム改革を含めた大学の教員数の拡充を検討している旨報告があった。